

『大安』(憩いの家)



東北教区 足利^{あしかが} 一之^{もとゆき} 仏教壮年会連盟講師

「讃仏偈」(仏説無量寿経)は、法蔵菩薩(阿弥陀如来)が師である世自在王佛を讃嘆^{さんたん}しつつ、自身がどのような願い・はたらきを具^{そな}えた仏と成りたいかを述べられた偈^げ文^{もん}です。その中で、法蔵菩薩は自身の浄土を「一切^{いっさい}恐懼^{くく}為^い作^さ大安^{だいあん}」(おそれなやめるもろびとの 憩いの家とならんかな)とお示しくださいました。このたびは、この「大安」を味わわせていただきます。

当寺で、記念講演をしていただいた教育心理カウンセラーの富田富士也^{とみたふじや}先生のお話です。

先生は、自宅で引きこもりを続ける子どもたちのもとに通い続け、「親の願いに叶わない自分はダメな存在なのではないか」と思い悩む、子どもたちの心の声を聞かれたそうです。例えば、親の願う通りの成果を得られないと「〇〇はできるのになぜおまえは出来ないのか」などと、親自身や

兄弟と比較しダメ出しをされる。そんな言葉が心に刺さり、「自分はこの家(親)に必要とされていない」と感じていたということです。富田先生は、その心の声を親御さんに伝え「お前はお前のままで居て良いのだよ」と、「お子さまを条件無しで認めてあげてほしい」と言葉をかけられているそうです。また、「それは子どもに限った事ではなく大人でも自分の存在を否定されると息苦しくなり、心の扉を閉ざしてしまうものなのですよ」と、お話しくださいました。

私たちは、他の人の心情を顧みることなく自分勝手な【天秤ばかり】で、是か非か・損か得か等と分け隔^{へだ}てをしてしまいます。法蔵菩薩は、そんな私の自分勝手な生き方を知り悲しまれ、誰もがそれぞれの「私」のままで安心できる居場所としての浄土「大安」を完成され阿弥陀如来と成られました。そして、常に私の命を条件無しで見捨てることなく摂^{おさ}め取り続けている事を知らしめる

喚^よび声が「南無阿弥陀仏」なのです。

誰とも比べることなく決して見捨てない、阿弥陀如来の願い・はたらきの中に摂め取られ続ける人生を、大きな安心と味わわせていただくのでした。

(合掌)

